

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100191		
法人名	メリーライフ株式会社		
事業所名	グループホーム里の家千歳 (コスモス)		
所在地	千歳市若草1丁目18-2		
自己評価作成日	平成23年5月1日	評価結果市町村受理日	平成23年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100191&amp;SCD=320">http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100191&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年7月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時より事業所独自の理念を掲げており、管理者・職員は理念を共有しており、その理念の達成に向け取り組み継続中である。また、毎年各自理念を踏まえた目標をあげ取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から挨拶を交わしたり、野菜等頂いたり一般的な近所付き合いを行うのはもちろん、地域の行事等にも参加したり、ボランティアの方々による演芸観賞（来設して下さる）も年に数回行われており、定着してきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な集まりや催しに参加し認知症について話をしている。また、地域の方が集まれる機会として、町内会の子供みこしの際にはホームを休憩所として利用してもらっており認知症についての理解にも繋げていく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、管理者を中心として、会議を開催している。ホーム側の取り組み状況の報告し、地域からの状況報告も行って頂き、話し合いを行うことで、サービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携については、本部職員、管理者が中心となり、連携を図っている。事故が起きた際の状況報告などで、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、職員は全てを理解しており実践に取り組んでいる。身体拘束の研修などにも積極的に参加し、職員同士情報の共有をしている。また、ご家族様にも入居時に身体拘束をしないケアについて説明し、ご理解を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の定義やその内容詳細について、各会議で都度説明を行っており、各自理解できている。普段から、入居者様に対する言動に注意し、虐待につながる事のないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている方はいないが、制度の内容等については、理解を深める努力はしている。今以上に全職員が理解を深められるよう研修等に参加し知識を得られるよう努めていく。（他ユニットで利用されている方がいるので、いつでも対応できるように、情報を共有する）		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、各項目について説明し、利用されることでの利点は勿論であるが、リスクについても十分納得された上での入居を推進していく。また、入居申込みを受ける前には、ホーム内見学案内も実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を汲み取る姿勢で対応している。また、家族様からの意見や要望、苦情は記録として残し、対応検討する流れが出来ている。（意見箱も設置）苦情や要望はすべての職員が周知し速やかな対応を心がけている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見は、毎週定期的に本部職員・管理者が現場に入り、各種会議の際及び日常業務の中で聞き取りを行い、その内容について本部で検討された後、必要と判断されたものについて反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部職員が、現場に入り個別に職員と話したり、悩み等を聴いたり職場環境の整備に努めている。また、職員個々の経験年数や資格取得に応じて賃金に反映することで向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修をなるべく多くの職員が受講出来るようにしている。勤務上、研修に行けなかった職員には、後日資料を配布し、毎月のユニット会議で発表してもらい、内容周知がなされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が主催する、地域包括会議などや、事業所が加盟している協議会が主催する研修会に積極的に参加している。その際、同業者との交流が図られており、情報を得ることで、サービスの質の向上に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談及び見学案内の際に不安な事や希望についても可能な限り聞き取るように努めている。家族様にも情報提供を依頼し、本人様との関係が早期に身近なものと感じられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在まで殆どの場合が事前の見学案内及び面談等で納得の上、安心して申し込まれており、その後の本人様の生活や職員対応について事業所側に任せて頂いている。ホームでの生活も理解して頂き不安解消につなげていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援の優先度についてもケアプラン上でも説明を行い、専門的な見地から家族様にアドバイスしながら決定している。希望や要望を聞き取りながら必要支援の見極めを行っていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人一人のバックグラウンドを把握し、家事参加や得意な事等を教えてもらったりする場面を作り、共に楽しんだり助けてもらったりすることで、日々の生活が充実していく事に繋げていく。また、家庭的な寄り添うケアに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各ご家庭の事情もあり全てが円満ではない。協力的な家族様とそうでない方との開きも大きいですが、細かな情報の伝達、密な連絡体制を継続し、少しでもケアに関心を抱いて頂ける様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を途切れないように、その場所に出かけたりする機会を設けている。(昔住んでいた場所など) また、家族様からの情報収集も随時行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の人間関係・性格・認知度を把握し、必要に応じて職員が間に入ることで、入居者様同士の交流や気持ちの支え合いが出来るよう支援している。他ユニットと交流する機会も作っており、関わりの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者様の家族様がボランティアで歌会を行って下さったり、退居後の本人様の近況について報告下さる事もあり、現在も良い関係が築けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の何気ない日常会話から、何をしたいのか、何を望んでいるのか等の思いや意向の把握に努めている。困難な方へは家族様、職員間での情報交換を大切にしその方に合った対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント・バックグラウンドの把握に努め、不足している所は入居者様・家族様より情報を収集し、馴染みの暮らし方、安心できるような環境作りを努めている。(センター方式を活用)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、各入居者様が一日をどのように過ごしているのか、食事や排泄などを通して把握に努めている。また、出来ないことよりも出来ることに注目し、各入居者様の全体像の把握にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行っている会議や日頃から入居者様の状況について話し合っており、現状に即した介護計画を作成している。家族様にも意見や要望を積極的に聞くよう努めている。また、かかりつけ医からのアドバイスも介護計画に取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケア目標をあげ実践し結果を記録している。その記録が評価につながり、ケアの見直しに活かしている。また、気づきや体調や状態の変化も把握し職員間で情報を共有しながら記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様及び家族様の希望を聴き取り、可能な限り希望に沿ったサービスの提供と支援を行なうようにしている。また、他ユニット・ホーム等での情報も参考にしサービスの向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方による行事や消防署による避難訓練等で協力を得られている。また、近隣学校とも関係が深まっており、互いの協力体制が築けてきている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・家族様の希望がある場合は、その希望の医療機関を受診し、それ以外の方は協力医療機関を受診し適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に訪問診療の際や受診の際に日頃の状況を報告している。ちょっとした変化も見逃さず伝えアドバイス等頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入居者様の日常の生活状況やケアについて情報提供や相談をし、また、早期退院の為の話し合いや退院後の経過観察についてもアドバイスを受け連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて事前に家族様及び、本人様の意向を確認するように努め、事業所として出来ることを説明し、リスクについての同意書を交わしている。最後まで里の家で生活したいと希望もあり、身体状況や食事状況の把握に努め、出来る限りのケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、全職員が内容を熟知している。また、日頃から入居者様に起りやすい事故や急変について話し合うようにしている。救命講習も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施により、災害対策について、全職員がマニュアルを周知している。また、訓練内容についても日中、夜間を想定した訓練を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格やプライドを尊重し、人生の先輩であり共に支えあう関係作りに努め、個々を尊重する声かけや対応を（感謝の気持ちを言葉や態度で示す）心掛けている。事故やヒヤリハット等に対しても静かな対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からの会話の中で何をしたいのか等さりげなく希望を聞きだし、それを行事やレクに活かしている。言いたいことを我慢してストレスを溜めないように話しやすい柔軟な姿勢や環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必要に応じてこちらから生活のリズムを作ることはあるが、本人様のペースを第一に考えその方らしい暮らしが出来るよう支援している。また、家族様からの情報も大切に、その方らしいペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様一人一人に合った個性や好み、能力を大切に、その方に合ったお洒落の支援をしている。また、見えるところだけではなく、目に見えない身だしなみにも気をつけ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人の好みを把握し、食事を楽しめるよう献立に取り入れ提供したり、外食や行事食を通して季節を感じたり回想に繋げている。また、できる事を活かしながら、家事参加等無理なく行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況・能力に応じ、制限食・超刻み食・ミキサー食の提供を行っている。また、水分摂取が困難な方には、飲み物や声かけの工夫をし必要量の摂取に努めている。食事介助者は、本人様の咀嚼や飲み込み状態、ペースに注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥や誤嚥性肺炎を防ぐ為、毎食後口腔ケアを行い予防に努めている。自立した方へは介入出来ない部分もあるので、さりげなく声掛けし清潔保持に努めていく。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、サインを見逃さずトイレ誘導を行っている。また、自尊心や羞恥心に配慮した声かけを心がけ、気持ちよく排泄し保清にも努めている。日中・夜間帯の対応の違いも把握し統一した対応を行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を確認し、早めに下剤で調整している。また、普段から食物繊維を多く取り入れたり、手作りのカスピ海ヨーグルトを提供し、便秘の予防・改善に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回は入浴しており、入居者様の希望に合わせた入浴（時間や順番など）に努めている。拒否の方や身体状況により入浴が出来ない場合は、着替えや清拭等で対応し清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人の生活のリズム・夜間の睡眠状況・体調の変化等把握し、その方に合わせた休息時間を設けている。また、昼夜逆転とならないよう活動の支援を行い安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人一人の服薬内容について全職員が把握出来ており、症状の変化等の確認や観察に努めている。また、服薬方法については、業務の流れで行うのではなく、各自責任を持ち、統一した対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や得意なこと・趣味・楽しみ事・生活歴の把握に努め、家事参加や楽しみ事を提供し気分転換や気晴らしが出来るよう支援している。拒否される場合もあるが、みんなで何かをするという機会が増え継続した働きかけに努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期は散歩やドライブに出掛け、また地域の行事にも積極的に参加している。行事等でも入居者様の希望に添えるよう支援している。冬場はホームに閉じこもりがちな為安全に配慮し出来るだけ外出の機会を作っていく。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が自分でお金を持つことの大切さを職員は理解できているが、実際管理出来る入居者様はおらず、管理支援は難しいが、外出時にはお金を渡して、本人様に支払いをお願いする場面を作っていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話や手紙のやり取りをされている方はおらず支援は行っていないが、年賀状等は支援しながらやり取りが出来るよう働きかけていきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内にお花や植木を置き家庭的な雰囲気作りをしている。季節感を感じてもらえるような飾り付けやぬり絵等も入居様に参加してもらいながら行っている。撮影した写真も貼り、明るい雰囲気作りにも努めている。また、環境整備にも気を付け過しやすい空間作りにも努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が一人でくつろげたり、入居者様同士で過ごせるようソファやテーブルの配置に気を付けている。個室で過ごす時間が多い方もおり孤立し過ぎない様支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には本人様や家族様と相談しながら、馴染の物や好きな物を置かれている。お花や写真を飾り落ち着く空間作りにも努めている。また、生活動線に注意した環境作りも行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗を招くような状態やそのような原因となりうる物を把握し、そのような状態を放置せず対応している。出来る事・出来ない事、工夫次第では出来る事等にも目を向け支援を行っていく。		